



VOL.168
NOV.2013

から市議会だより

第 168 号
平成 25 年 2 月
発行 柏原市議会
編集 市議会だより編集委員会
柏原市 安堂町1番55号
電話 972-1501(代表)
FAX 971-8932
Eメール gikai@city.kashiwara.osaka.jp

第5回議会報告会を開催

～柏原市議会は「開かれた議会」を目指しています～



11月19日(月) 堂島・河原老人集会所



11月19日(月) 田辺第二会館



11月20日(火) 山ノ井清水館憩いの家



11月20日(火) 雁多尾畑老人集会所

○議会報告会での報告内容

平成24年第3回定例会議案より

<報告1> 決算について

<報告2> 竜田古道の里山公園調査特別委員会報告について

○各会場で寄せられたご意見（抜粋）

- ・里山公園については大変矛盾を感じる。議員の更なる追及を！
- ・柏原市民病院、サンヒル柏原、目標とギャップの問題に対してもっとスピードアップの行動を願いたい。継続、中止など。
- ・今後とも市民と一体になる色々な方法を考えるべき。
- ・議会報告会は大変意義深い取組だと思います。是非続けてください。

柏原市議会は議会改革の一環として、市民に開かれた議会を目指し報告会を4会場で開催いたしました。

- ・柏原市内の道路行政について、早急に対応して欲しい。
- ・柏原病院の、質の向上を！（医師問題、待ち時間の問題）
- ・議員定数、報酬について（賛成、反対、両意見）
- ・土砂災害時の、柏原市の危機管理について。
- ・竜田古道の里山公園の件については最初から納得いかない。経緯を説明して欲しい。

日本共産党

1つ目の理由は、本来の行財政改革とは、市民に対して痛みを押しつけることなく、市内の中小企業や商店などを支援し、市民の懐を豊かにし、生活や暮らしを守り、福祉や教育を充実し、そして、柏原市の特徴を出し、柏原市に住みたい、住み続けたい、子育てをしたいと思っていただけのようにすることである。そんな改革が求められている。しかしながら、22年度で市の独自事業である中小企業や商店等事業所を支援する商業振興事業が廃止された中で、23年度は新たな事業が全くなかったことである。2つ目の理由は、竜田古道の里山公園維持管理費として執行された21,831,

273円が不適切・不明瞭である。アルバイトの賃金の支出に関しては、担当課が存在も把握していなかった勤務成績表と出勤簿を比較すると有給消化などでの食い違いや、竜田古道の里山公園以外での作業実績が確認された。このことに関しては、担当課の監督責任が問われる。また、NPO法人に対しての委託料に関しては、240万円を概算払いする異例の措置が取られている。また、支出の確認は、委託料支出内訳明細書だけで行われ、証拠書類である領収書は確認していない。

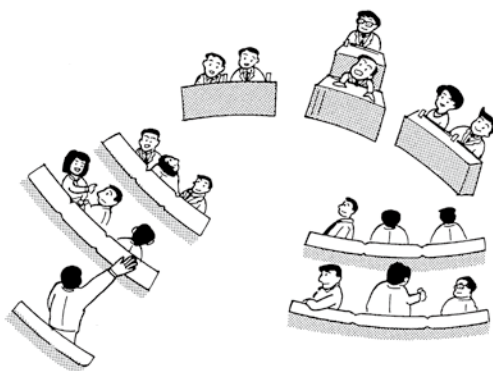
NPO法人に対しての委託料の支払いが市の財務規則（金額が確定後に概算払い精算書に証拠書類を添える）に反して予算が執行されたことは、あつてはならないことで重大な問題である。

平成23年度一般会計歳入歳出決算については、大部分において行財政改革に取り組んでいることが明確に表れている。しかし、竜田古道の里山公園に関する支出については、適正に処理がなされたとは言えない部分がある。

自由民主党政新会

容の明確化を図り、適正に執行・検証すること。

また、適切な予算執行と再発防止に万全を期すように強く求めるものである。



柏原維新の会

平成23年度柏原市一般会計歳入歳出決算の中で、予算執行に問題があると指摘する。竜田古道の里山公園維持管理費であるが、この公園は、3市の最終処分場として昭和49年から共用開始し、3市の市民26万人のゴミを捨ててきた処分場である。公園計画も環境事業組合側の責務で地元堅上地区と合意されていたものを、平成22年10月26日、柏羽藤環境事業組合と柏原市との間で、土地の無償譲渡の覚書が締結されたことにより、以後の維持管理費は柏原市の単独負担となっている。市の負担は無いと今まで説明を受けてきたが、今回の決算審査で環境事業組合から繰り入れされた維持管理費

は実質マイナスだと判明した。予算と決算の説明に大きな相違がある。また、嘱託職員報酬615万9,600円、アルバイト賃金1,159万8,900円等の人件費が、雇用された目的以外の場所、例えば、国土交通省の土地である亀の瀬の草刈をしている事実を確認した。人の流用は年間延べ約770人にも及び、これらの支出は、予算の流用によって支出できる範囲を大きく逸脱している。議決された予算の趣旨に反し、到底容認できない。

更に、竜田古道の里山公園管理業務委託料240万円についても、先払いされ領収書等の内容が精査されることなく、精算を完了していることが明らかになった。これらの処理は、柏原市財務規則に反し認定することは出来ない。

市民・民主クラブ

平成23年度柏原市の経済状態は、景気の低迷による歳入、特にその根幹を占める税金収入の落ち込みが他聞にもれず厳しい状況で、柏原市の財政状況を示す経常収支比率も、92.3パーセントと高く、決して安心できる事態ではない。

このような環境の中にあつて、柏原市の一般会計決算報告に対し市議会が不認定とした大きな要因は、「公園緑化費用のうち「竜田古道の里山公園維持管理費」の支出の一部が領収書のないまま執行処理されている」という会計常識では暴挙とも思われることが、当局責任者で把握することなく実行されていたことが市議会・百条委員会の知る

市民の会

認定第1号平成23年度柏原市一般会計歳入歳出決算の歳出認定に反対意見を3点、述べさせていただきます。

老朽化したやすらぎの園建設について、利便性の悪いサンヒル柏原の敷地内への移転は、利用者側から苦情も出ている。

サンヒル柏原の敷地内に建設する計画に伴う調査業務委託料を、予算計上もせずに、調査委託をしたことは、認めることはできない。

一般廃棄物収集運搬業務委託料について、1業者が毎年随意契約により、2,000軒を委託契約し、他社の収集代金より、1世帯当たり約290円高く、月にして約58

公明党

反対の理由として二点ある。

一点目に農林水産業費の農業費の農業振興費中、仮称地域交流拠点施設整備事業費91万3,500円について、設置場所が二転三転し、設計図を作製したにもかかわらず実現されていない。

二点目に、土木費の公園緑化費中、竜田古道の里山公園維持管理委託料240万円は、業務委託先のNPO法人柏原ふる里づくりの会へ概算払いで支払われ、支払いの証拠書類に基づいた精査がなされていない。委託契約とは別に跡地整備を担当する嘱託職員等が年々増員され、平成23年度では13名となり、これまでに合計約3,700万

万円、年間では約700万円高額になっていることについて、平成23年度一般会計予算の審査時に、法に基づいた数値的な説明を求めたが、回答を得ることはできなかった。経済性・公正性から考えて、不透明・不平等な委託料を認めることはできない。

竜田古道の里山公園維持管理費について、6月の定例会において、市長は「竜の瀬の維持管理費に使われていたことは知らなかった」という答弁をされた。市長が知らない高額で不透明な歳出を、認めることはできない。

以上の理由で、平成23年度一般会計歳入歳出決算を不認定と表明する。



円の人件費が投入された。この整備目的で採用されたアルバイト職員等が竜の瀬地区、サンヒル柏原等の場所においてローテーションを組み、作業していた事実、つまり目的外に使用されていたことが明らかになった。柏羽藤環境事業組合からの平成18年度から22年度までの5ヶ年の維持管理費5,000万円について、決算特別委員会の中で、理事者は基金に入れると整備にしか使えないのでまだ残っていると答弁したが、担当課に聞くと、人件費も維持管理費の内なので、ほとんど余っていないため持ち出しになっているとのことであった。

以上の流れの中であまりにもいいかげんな支出が判明したので、当然認められないと判断した。よって、不認定とさせていた

クローズアップ12月定例会概要

平成24年12月定例会
(11月26日～12月21日/会期26日間)

平成24年12月定例会は11月26日に開会し、報告案件2件、条例・人事・補正予算案件等23件が提案され可決、承認した。

柏原市立桜坂小学校・桜坂中学校の新設

議案第7号 柏原市立小学校及び中学校の設置等に関する条例の一部改正について

平成9年6月に児童福祉法が改正され施設に入所している児童・生徒に学校教育法に基づく学校教育を実施することが義務付けられた。これを受け、高井田にある児童自立支援施設「大阪府立修徳学院」内に新たに柏原市立の小学校及び中学校を設置する提案が柏原市から議会に提出された。府の施設内に市立小・中学校を設置することにより、柏原市に負担がかからないことなどを確認した上で、賛成多数で可決した。新しい小・中学校は平成25年4月1日開校予定である。

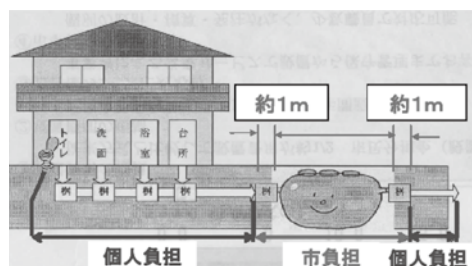


大阪府立修徳学院（みかえりの塔）

柏原市浄化槽施設の設置及び管理に関する条例

柏原市では初めて民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）を適用し、市設置型のいわば「ミニ下水処理場」とも言える合併浄化槽を10年間で概ね300基設置するもので、浄化槽整備区域は雁多尾畑、青谷、本堂、国分東条町の一部である。公共下水道の計画区域外などでは今回初めてPFIを採用し、市民への負担も少なく（本体費用の1割程度）事業効果が期待されることから全会一致で可決した。

●工事費の負担区分



市立柏原病院のさらなる充実を！

公明党

中村 保治



問 市立柏原病院の現状と今後の方向性について問う。

答 本年4月に病院事業管理者が、7月に病院長が新たに着任した。この新体制のもと、4月に院内において、従来からのボトムアップ体制を発展させ、全職員が一丸となって病院改革に取り組むことを目的とし、医師、看護師、コメディカル、事務局の中間職員による「リーダー会」を設置した。この「リーダー会」において、再三の検討を重ね、安全で安心できる医療の提供並び

に経営の健全化を図る病院改革の指針として策定した「市立柏原病院八策」をもとに協議を重ね、「救急医療の充実」「急性期から亜急性期まで」「慢性期医療」を3本柱とした今後の病院の方向性を決定し、院内への周知を図るとともに、病院事業管理者、病院長から関連大学への報告も行い賛同を得ている。また、この方向性を踏まえ、平成27年度を最終年度とした「新市立柏原病院改革プラン」の策定に着手している。

今後とも病院の方向性を堅持し、「新市立柏原病院改革プラン」を着実に実行することにより、経営の安定化に努め、地域の基幹病院としての役割を果たしていく。

要望 病院内での病児病後児保育の実施の検討も含め、地方自治体病院としての使命を果たしていくよう強く要望する。

幼児教育と保育行政の在り方について

自由民主党政新会

山下亜緯子



問 本市における今後の幼児教育と保育行政の在り方について問う。

答 教育委員会では、一定の集団活動を確保し、望ましい保育を濃密展開するため公立幼稚園の活性化を図ってきた。しかし、「柏原市立幼稚園の今後の在り方基本方針」記載の5～10年後の見通しより早いペースで就園数の減少が進行している。少子化に伴う市立幼稚園運営の見直しを図るため、「柏原市幼児教育審議会」を設置し、就園数が減少傾向にある公立幼稚園運営につい

て諮問を行い、来年秋頃に答申をいただく。また、保育行政は、年度当初は全員入所でき待機児童ゼロだが、毎年、年度後半で0歳児において待機いただくこともある。国の幼児教育、保育及び子育て支援の新しい枠組みの検討に伴い、本市においても平成25年度～26年度にかけ市民ニーズ調査や平成27年度から取り組むべき行動計画を策定する。

要望 近年、小学校入学時において幼稚園卒園生と保育園卒園生の比率に大きく差がない。子どもたちに平等な幼児教育と保育を提供するためにも、教育委員会とごども課が密に連携するべきだ。そして統廃合はマイナスのイメージだが、将来を見据えた新しいシステム作りであるとプラスに発想転換し、方針を打ち出していきたい。

資源ごみの回収について

日本共産党

山本 真見



問 ペットボトルの収集について問う。

答 市役所、小・中学校等の公共施設、大型スーパーマーケットや府営住宅など、市内37か所に回収拠点を設置し、月1回から週5回の頻度で回収している。平成23年度の回収量は、45.7トンだった。

問 人口規模が同じくらいの藤井寺市では、平成23年度約67トンも回収が行われている。22トン差がある。過去五年間をみても藤井寺市の方が回収量が多く平成19年度で約21トン、平成20年度で約19トン、平成

21年度で約19トン、平成22年度で約21トン、平成23年度で約22トン多く回収されている。回収の拠点が少ないと思われるが、どのように考えるか。

答 拠点箇所を増やすことが必要である。集合住宅での回収も考えたい。

要望 積極的に拠点を増やすよう取り組んで欲しい。

また今後の課題と思うが、他市から引越して来られた方から、「柏原市の資源ゴミの分別は案でいいが、本当にこれでよいのか疑問だ。」と言われる。確かに分別を細かくすると、慣れるまではかなり大変だが、しっかりと分ければゴミも資源になる。ゴミの量を減らすためにも、環境に優しい柏原市にするためにも、資源ゴミの分別の細分化を進めるよう要望する。

亀の瀬の今後の維持管理について

市民の会

濱浦 佳子



問 亀の瀬の今後の運営方針を問う。

答 国の財政状況等により、当初の内容が大きく変更され、市の上面利用も、緑の再生、森の再生へと大きく方向を変更し、「自然あふれる市民の憩いの場」としている。本格的な上面利用に先行し、市民や企業、NPO法人等との協働、大阪府中部農と緑の総合事務所の協力も得、樹木約1,000本、レモンの苗木約2,200本を市民協働で植樹した。草刈り等の維持管理は、市民、企業の方々のボランティアを基

本とするが、ボランティアによる草刈りだけでは困難であるので、シルバー人材センターへの委託も考慮している。

要望 以前、亀の瀬について質問したが、広大な土地（約30万坪）を協働だけで維持管理はできない。草刈りだけで1億円ほ



広大な亀の瀬

恩智川多目的遊水地の有効な活用を！

柏原維新の会
奥山 渉



問 恩智川（法善寺）多目的遊水地事業の付帯工事として堅下北小学校北側の市道山ノ井法善寺線に仮歩道が設置されたが車道幅は変わらず自動車と相互通行しにくい状況である。堅下地区は東西の道が狭く街の発展の妨げとなっている。道路幅拡幅に向けて大阪府と協議する考えを問う。

答 現在4m弱の道路幅員で両サイドに電柱があり一部区間で車の通行に支障がある。この路線は通学路に指定されているが、歩道がなく児童が安心して通れない。旧国

道から小学校までの間2.5mの仮歩道はすでに供用開始し、来年度以降、恩智川より小学校正門までの仮歩道工事を行う。今後は歩道・車道幅等について府と協議する。

問 本体工事の完成まで数十年かかるというが、その間グラウンドゴルフ場等、工事用地の有効利用を考えてはどうか。

答 住民の総意なら、同様に府へ有効利用の交渉をしていく。



拡幅が望まれる市道山ノ井法善寺線

高齢者の見守りを！

自由民主党政新会
田中 秀昭



問 地域あんしん事業は、地域の関係機関と連携し、高齢者の見守り訪問を行う事業である。継続的な見守り活動を行い、高齢者の生活実態を把握し、適切な支援を行うことを目的としており、現在、1,035名の一人暮らしの高齢者の見守り活動を実施しているが、今後どう進めるか問う。

答 次の段階として、高齢者のみで生活されている世帯の見守り訪問だけでなく、できるだけ多くの高齢者の方の生活実態把握に努める。

要望 後期高齢者だけで約6,900人おられる。75才以上の高齢者の二人暮らし世帯も多く、老老介護されている方も多い。次の段階として、この方々の見守りを検討し、また、現在見守りを自ら拒否されている一人暮らしの方へのアプローチも再度検討された。



市長の政治的責任を問う

日本共産党
橋本 満夫



問 岡本市政2期目の総括について問う。

答 重要プランとしての6項目のマニユフェストはまだまだ、知恵を絞り、力を尽くし進めなければならない。

要望 21年度は、公共下水道使用料の38.6%の値上げ・自転車駐輪場の値上げを提案した。22年度は、裁判所で公判中である元枚方市長の中司氏を非常勤職員として採用するために予算を402万円組んだ。私の反対する立場の発言に対し、「あほな発言」といい、マイクを投げつけ長時間にわ

たり委員会が中断した。23年度は、サンヒル柏原敷地内にイノブタの加工処理施設設置を提案したが、反対する住民運動があり議案を取り下げた。柏原東幼稚園の廃園、そして柏原病院入札疑惑もあり、マスコミを騒がせた。24年度も12月議会でも23年度一般会計歳入歳出決算が全議員により不認定の決断をくだされ、岡本市長の政治的責任が問われる。議会軽視、市民不在、不透明な市政運営が続いている。

今必要なことは、市役所の職員は何よりも市民に顔を向け、市民の中に飛び込み、市民のための提案を行政の中で行つてこそ、公務員としてのやりがい、働きがいが出る。職員の頂点に立つのが市長である。柏原市民全体の奉仕者として、市政運営をすべきである。

放課後児童会の充実を！

市民・民主クラブ
岸野友美子



問 放課後児童会の開設時間延長を問う。

答 現在の開設時間は児童の安全を図るため明るうちに帰宅できる午後5時（11月から12月は午後4時45分）まで実施している。

問 小学校に行つた途端に放課後児童会での保育時間が短くなり、問題が生じる。保育所との保育時間帯の違いについて問う。

答 保育所は、保護者の送り迎えが基本のため帰宅時の心配もないので、保育時間帯に差が出ている。

要望 時間延長をお願いするに当たり、お迎えということは100%条件にしている。この度は、保護者の皆様から要望と共に4,019名の署名を頂いた。この大切な署名を私のほうで預かることを、放課後児童会の会長さんをはじめ数名の役員の方にご理解をいただいた。色々な思いの詰まった大切な署名である。保育所の待機児童ゼロが誇れる柏原市である。でもその後、小学校に入る時に引越しをされるケースもある。小学校に行つても充実した環境があれば住み続けてもらえるのではないか。保護者負担の問題、放課後指導員の雇用なども考えなくてはならないと思うが、その辺を早急に検討していただき、来年度からは非とも預かり時間を6時半まで延長するよう強く要望する。

市立老人福祉センターの 建て替えについて

会派に属さない議員
石橋 實



問 市立老人福祉センター「やすらぎの園」は高齢者の憩いの場所として、多くの方に利用され喜ばれているが、竣工以来30年以上経過している施設でもある。現状の問題点と改善策について問う。

答 市立老人福祉センターは、昭和56年6月から開設しており、建物内外の施設、設備等の老朽化が著しく、今年度は、二階大広間の空調設備の修繕、地下機械室漏水及びのり面の補修等を行った。今後の、市立老人福祉センターのあり方については、

議会へも相談しており、その経過を踏まえたうえで方向性を考えたい。

問 一つ故障が発生するか予測困難な状況であるなら、多くの利用者のためにも新たに老人福祉センターを建てる方向で進めるべきだと思う。財政事情の厳しいことは理解しているが、新たな老人福祉センターを建てることについて、市長の考えを問う。

答 市立老人福祉センターは建て替えの時期が来ていると思う。

そのための予算や候補地などについても検討しており、積極的に進めて行きたい。

要望 高齢者福祉の充実のため、また、60歳以上の市民が健康で明るい生活を営めるように、一日も早く新しい市立老人福祉センターを建設していただくことを強く要望する。

竜田古道の 里山公園問題

柏原維新の会
寺田 悦久



問 市長は、ゴミの最終処分場跡地を返すと議会で説明したが、柏羽藤環境事業組合の回答では、維持管理費は協定書及び覚書に基づき解決済とのことである。

その後の交渉はどうなったのか。

答 土地は、現時点では、柏羽藤環境事業組合の所有である。

問 依然として、議会の認めていない市費で維持管理費を執行している。すべての原因は、平成22年10月26日に市長が締結したゴミの最終処分場をもらい受けることが

記された覚書にあると思うが、いかがか。

答 平成17年に市長になったが、あの土地にコンクリートで固めたゴミが埋まっていることを知らず、下の方で湯気が出ている事実も後で分かった。これはもううべきでないと思ったので名義は変わっていない。

要望 知らなかったことはあり得ない。

平成18年10月2日の環境事業組合管理者会で、財産譲渡の提案、維持管理の役割分担、財産譲渡の時期、面積範囲等の協議を三市長でされている。また、ゴミ最終処分場の供用開始は昭和49年で、市議会議員として、昭和49年10月22日に議長に就任した市長が、あの土地にゴミが埋められているのを知らなかったとは、責任感がなさ過ぎる。市長として大問題だ。堅上地区のすべての皆さんは生活上の重要な問題だと思っている。

各地域の老人会館の 運営について

市民の会
藤森 洋一



問 各地域の老人会館等は、葬儀が会館運営のための大きな収入源になっていたが、市内に専門の葬儀場が増えたため、時代の流れと共に老人会館等の使用が減り、収入も減ってきている。

地域の集会所でもある会館が老朽化した時の修繕費等の補助は考えているかを問う。

答 市内各地域の老人会館、老人集会所、老人憩の家は、現在その数、49カ所ある。そしてその半数が築30年から40年経過しており、老朽化が著しく修理修繕を必要とし

ている。市では平成14年の大阪府の補助要綱の廃止に伴い、平成17年に行財政改革の推進等の観点から「柏原市老人クラブ常設集会所及び簡易常設集会所整備等補助金交付要綱」の廃止を行い、地域による運営として来た。しかし、現状として維持管理、特に修繕に関しては多額の費用を要し、一方、会館の使用料の収入が年々減少し、地域での運営がひっ迫していることもあるので、市としては地域の集会所の現状や過去の修繕等の履歴を総合的に判断し、一定の条件や補助金の上限額を設定したうえでの補助等について前向きに検討していく。

要望 前向きに検討していくとの喜ばしい返答だが、各老人会館等共、本当に収入が減り、運営も困難になっている。早期に実現していただくよう要望する。

男女共同参画社会の 推進について

公明党
堅木 照久



問 現在の「柏原市立女性センター」(通称フローラルセンター)の名称を、時代に即した仮称「男女共同参画センター」にし、更なる男女共同参画の推進と「男性のための相談」窓口の設置が出来ないか問う。

答 名称の変更については、平成23年3月の「男女共同参画審議会」で時期尚早との意見もあったが、最終的には、時期をみて名称変更してほしいと意見は一致した。

要望 「男性のための相談」窓口は、昨年12月から新たに設置して実施している。

問 府下自治体での名称の状況を問う。

答 「男女共同参画センター」が21市1町、「女性センター」が4市2町、両方設置が1市、未設置15市である。

問 名称の変更は、何度も要望している。早く実施出来ないか問う。

答 名称変更は、時代の流れで良いことである。費用もかからないようなので、早急に検討したい。



女性センター (交流サロン)

平成25年
2月10日(日)

市議会議員 補欠選挙が 行われます。



全国に柏原の特徴を発信し

夢ある街の創造を！

市民・民主クラブ

鶴田 将良



問 シティプロモーション施策に対する市の考えについて問う。

答 シティプロモーションとは、地域の魅力を発信し、それと併せて「人・モノ・情報」などの資源を効果的に活用して、商品やサービスを消費者にお知らせして、購買まで結び付けていくための活動である。柏原市においては、特産物のぶどう、豊かな自然環境や歴史など、魅力のある資源が数多くあり、従来からそれらを活用して「認知度」や「まちのイメージ」を高める

ために様々な取り組みを行っているところである。

市として、「柏原観光まちづくりビジョン」において、「カシワラプロモーション戦略のための提言」をいただいているので、それらも踏まえ柏原市の「まちの魅力の発信」に取り組んでまいりたい。

問 柏原市の特徴の発信力に欠けている中、市外からの観光客誘致につなげるため、具体的に何をどう行うのか。

答 「カシワラプロモーション戦略のための提言」を踏まえ、市民レポーターの募集や、観光客誘致・販売促進に取り組んでまいりたい。

要望 若者も積極的に参加し、活動することができ、夢のある柏原市の創造を要望する。

12月議会で決めたこと

- ◆平成23年度柏原市一般会計歳入歳出決算の認定について（不認定（全会一致））
- ◇平成23年度柏原市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）歳入歳出決算の認定について
- ◇平成23年度柏原市国民健康保険事業特別会計（施設勘定堅上診療所）歳入歳出決算の認定について
- ◇平成23年度柏原市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- ◇平成23年度柏原市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- ◇平成23年度柏原市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- ◇平成23年度柏原市市立柏原病院事業決算の認定について
- ◇平成23年度柏原市水道事業決算の認定について
- ◇平成23年度長瀬川沿岸下水道組合歳入歳出決算の認定について（以上、8件認定）
- ◇固定資産評価審査委員会委員（近藤隆氏）の選任につき同意を求めることについて（同意）
- ◇専決処分報告（専決第11号 損害賠償の額の決定及び和解について）について（承認）
- ◇平成23年度柏原市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について
- ◇公の施設（柏原市立老人福祉センター）の指定管理者の指定について
- ◇公の施設（柏原市体育施設）の指定管理者の指定について
- ◇大和川右岸水防事務組合規約の変更に関する協議について
- ◇執行機関の附属機関に関する条例の制定について
- ◇柏原市指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者に関する基準を定める条例の制定について
- ◇柏原市都市公園条例の一部改正について
- ◇柏原市移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める条例の制定について

- ◇柏原市道路の構造の技術的基準を定める条例の制定について
- ◇柏原市道路標識の寸法を定める条例の制定について
- ◇柏原市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例の制定について
- ◇柏原市自動車駐車場又は自転車駐車場の標識を定める条例の制定について
- ◇柏原市下水道条例の一部改正について
- ◇柏原市浄化槽施設の設置及び管理に関する条例の制定について
- ◇柏原市河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例の制定について
- ◇柏原市立小学校及び中学校の設置等に関する条例の一部改正について（賛成14人〔自由民主党政新会、公明党、柏原維新の会、日本共産党、市民・民主クラブ、会派に属さない議員〕、反対2人〔市民の会〕）
- ◇柏原市布設工事監督者を配置する水道の布設工事並びに布設工事監督者及び水道技術管理者の資格を定める条例の制定について
- ◇柏原市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について
- ◇平成24年度柏原市一般会計補正予算（第6号）
- ◇平成24年度柏原市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第2号）
- ◇平成24年度柏原市公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）
- ◇平成24年度柏原市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）
- ◇平成24年度柏原市市立柏原病院事業会計補正予算（第1号）（以上、23件原案可決）
- *採決で賛否が分かれた場合は、会派名、又は議員氏名のいずれかを掲載します。
- *一般採決では、可否同数にならないかぎり、議長は採決に当たりません。

竜田古道の里山公園調査特別委員会委員長報告

(11月26日、12月21日) 概要

平成18年10月2日柏羽藤環境事業組合管理者会(3市長)において、岡本市長の申し入れにより第二期最終処分場跡地の内、公園用地等を柏原市に無償譲渡する旨が合意され、これをもとに、平成22年10月26日に覚書が交わされ、その翌月12日に、公有財産(公園用地等)の寄附が、3市長押印により、環境事業組合で決裁された。

市長が無償譲渡を申し入れた意図や柏原市のメリットについて、

納得できる説明はなく、また、当該跡地を環境事業組合が運動公園等に整備すると地元雁多尾畑地区と交わした約束(平成14年)に反し、市が当該跡地を取得し、今後の維持管理費を市単独で負担するという重要案件を、地元や議会等に相談報告をせず、市長が進めた理由等についても、納得できる説明はなかった。

市が公園維持管理を委託したNPO法人に委託料が概算払い(先払い)され、領収書等内容が精査されないまま、精算が完了した等の件について、当委員会が調査をしたところ、日付の改ざん、宛名と明細がない等ずさんな領収書で

あり、一層の不信感と疑惑が広がった。また、当該公園維持管理事業におけるアルバイト職員等の就労形態や作業内容も不明瞭であることから、この2つの疑惑を解明するため各委員を二班に分け専門的に調査することに決した。

市長が、複数の参考人に対し、虚偽発言をするよう依頼したと、NPO側参考人から説明があった件は、後日調査する。

市長が、覚書は、「破ってほったら終わり。」と発言したことは、議会軽視で市長の資質が問われる重要な問題である。

土地名義について、市長は、名義変更の手続きが済んでいないことを理由に、譲渡の問題はないとすり替えて説明しているが、これまでの覚書や公文書の所在から、本市と組合の両者が土地譲渡について契約を完了していることは明らかである。

よって、土地譲渡については撤回を、また、公園維持管理費は環境事業組合が負担することを、岡本市長の2期目在任中に解決していただきたいということを、委員の総意とした。



- 生活保護基準の引き下げはしないことなど国に意見書提出を求める陳情 柏原市生活と健康を守る会
 - 建設技能労働者・職人の仕事と暮らしの改善に関する要望 全建総連・大阪建設労働組合
 - ディスクドッグ(フリスビードッグ)大会の開催にあたり柏原市河川敷等の利用許可を求める陳情書 チーム「ワンラバーズ」
- (以上3件の陳情は、議長預かりとなりました。)



第1回定例会(予定)

月 日	会 議 名	内 容
2月19日(火)	本 会 議	議 案 説 明
28日(木)	本 会 議	会 派 代 表 質 疑
3月1日(金)	本 会 議	会 派 代 表 質 疑
4日(月)	総務文教委員会	付 託 議 案 審 査
5日(火)	市民福祉委員会	付 託 議 案 審 査
6日(水)	建設産業委員会	付 託 議 案 審 査
8日(金)	本 会 議	各委員長報告、採決

※いずれの会議も午前10時からです。 ※日程は変更する場合があります。

柏原市議会ホームページ

柏原市議会のホームページでは、本会議の録画中継や市議会会議録など、市議会の情報等がご覧になれます。

柏原市議会

検索

柏原市議会ホームページアドレス
<http://www.city.kashiwara.osaka.jp/gikai/>